



公益財団法人 福井県文化振興事業団

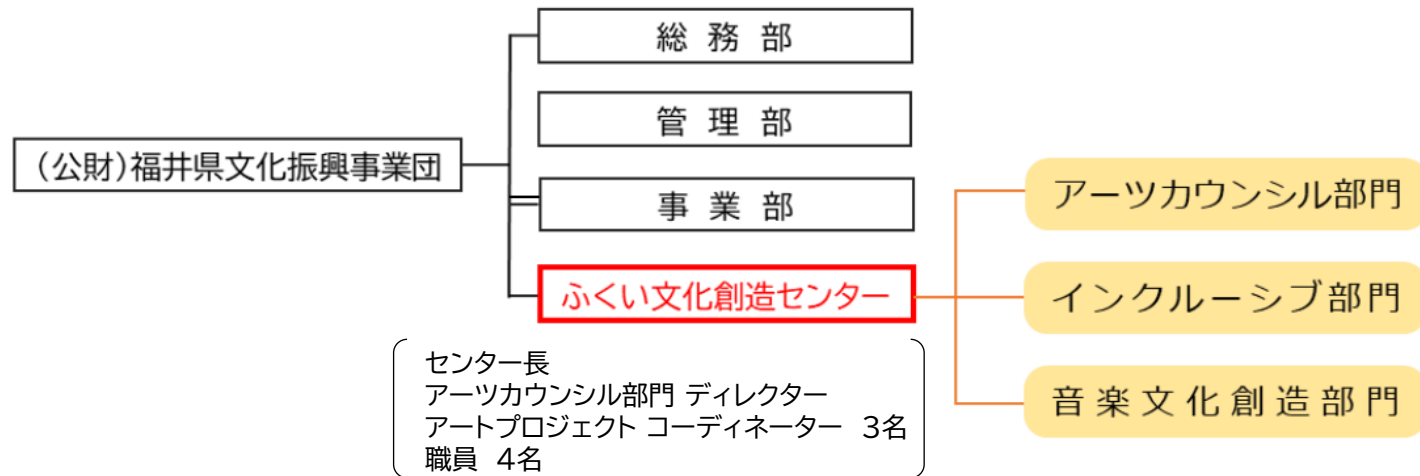
ふくい文化創造センター

事業進捗と今後の方針

福井県交流文化部文化・スポーツ局文化課
公益財団法人福井県文化振興事業団

組織と体制

- 令和7年4月（公財）福井県文化振興事業団のアート振興部を改組し、「ふくい文化創造センター」を設置
- 文化活動に関する専門知識を有するディレクターの採用(令和7年7月)、
新たなアートプロジェクトコーディネーター(地域おこし協力隊)の採用(令和7年9月)などにより、
センターの人員体制を確立



《アーツカウンシル部門 ディレクター》



渡邊 一孝（わたなべ かずたか）

1986年 福井市生まれ。

配給会社、俳優事務所、映画祭のスタッフを経て、日英翻訳のコーディネートや映像字幕制作、自主映画の制作を行う。2014年に映画の企画から製作配給/海外セールス及び翻訳字幕制作を行う株式会社E.x.N(エクスン)を設立。ミャンマーやベトナムなどアジアとの国際共同製作映画をプロデュースし、配給を行う。プロデュースした映画作品『LOST LAND／ロストランド』が、第82回ベネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門で審査員特別賞を受賞。

● アーツカウンシル部門

- ・ 文化芸術活動実践団体などと協力した本県における文化芸術創造の促進や本県の魅力向上を促進
- ・ 子どもたちに優れた文化芸術に触れる機会の提供による次世代を担う人材育成
- ・ 文化を取り入れた企業活動を行うことによる効果への理解促進

● インクルーシブ部門

- ・ 文化芸術活動を通じて障がいの有無にかかわらず誰もが豊かな生活を送ることができる社会づくり

● 音楽文化創造部門

- ・ 子どもたちに優れた音楽文化に触れる機会の提供による次世代を担う人材育成
- ・ 新たな音楽文化の創造や多文化共生をはじめとする音楽文化を通じた交流機会の拡大

1 新たな文化創造

～文化で織りなす共生社会実現実証プロジェクト～

2 文化芸術によるクリエイティブ経済の活性化

～企業の文化活動促進プロジェクト～

3 文化芸術活動実践者への支援

～アートプロジェクトによる文化芸術創造～

4 未来人材の育成

～こども文化芸術体験1万人プロジェクト～

5 県民による文化創造への機運醸成

～文化芸術に溢れ賑やかな福井づくりプロジェクト～

主な事業の進捗

1 新たな文化創造 ～文化で織りなす共生社会実現実証プロジェクト～



インクルーシブ研修プログラム

【実施概要】

インクルーシブアーツ研究の国内第一人者の新井鷗子氏(横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授)の監修の下、座学や実際にコンサートの運営に携わる実践研修を通じて、誰もが気軽に文化芸術に触れることのできるインクルーシブなイベント運営のノウハウを学ぶ

【実績・予定】

参加者(研修生) 25名

座学研修、見学研修、アテンド研修、実践研修(全7回)

<実践研修の公演>

①バリアフリーコンサート(R7年11月30日)

②ミュージック・イン・ザ・ダーク® (R8年3月15日)



福祉施設へのアーティスト派遣

【実施概要】

高齢者や障がい者、施設に入所する子どもたちにアーティスト等による鑑賞会や表現手法を用いたワークショップを実施することにより、生きがいづくりや活力向上を図る

【実績・予定】

7～12月にかけて11組のアーティストが
11施設を訪問予定 訪問予定施設数

応募施設数: 56施設

訪問希望アーティスト: 22団体・個人

主な事業の進捗

2 文化芸術によるクリエイティブな経済の活性化 ～企業の文化活動促進プロジェクト～



企業の文化活動促進研究会

【実施概要】

文化による企業の価値創造や人材育成に加え、県内の文化芸術の醸成や次世代育成、地域の持続的発展に向け、企業の文化活動を促進する仕組み等について調査・検討を行う研究会を運営

【実績・予定】

開催期間：2年間（R7年9月末までに5回開催）
参加者：6企業、県、事業団、福井商工会議所
スケジュール：R7年9月 中間報告とりまとめ
R8年9月頃 報告書とりまとめ



ビジネスパーソンのための 文化芸術セミナー

【実施概要】

文化芸術と経済の両輪をつなぎ、持続可能な社会をつくることを目指し、ビジネスパーソンが文化・芸術に触れ、アートと経済社会について考えるミニコンサート付きセミナーを開催

【実績・予定】

9～10月に3回シリーズでセミナーを開催
福井商工会議所との連携により、広く県内企業に周知

- ・R7年9月18日「アート思考を体験する」
(株)E&K Associates 代表 長谷川 一英 氏
- ・R7年10月15日「文化資産を活かした企業戦略」
油機エンジニアリング(株) 代表取締役社長 牧田 尚起 氏
千島土地(株) 取締役名誉会長 芝川 能一 氏
- ・R7年10月23日「アートをビジネスに活かす企業戦略」
(株)tagboat 代表取締役 徳光 健治 氏

主な事業の進捗

3 文化芸術活動実践者への支援 ～アートプロジェクトによる文化芸術創造～



アートプロジェクト実践団体への助成

【実施概要】

地域の歴史、伝統芸能、美術、音楽などの文化資源を活用し、地域の魅力向上や新たな文化の創造、課題を解決するために住民が主体となり地域活性化に取り組む事業を支援

【実績】

採択件数：45件（応募件数：64件）

- ・特定プロジェクト支援
50万円～200万円 助成率10/10 5件採択
- ・プロジェクト支援
150万円 助成率2/3 12件採択
- ・地域の魅力向上支援
20万円～50万円 助成率1/2 28件採択



団体間のネットワークづくり

【実施概要】

アートプロジェクトの事業運営のレベルアップや実践者同士の交流による団体間の連携強化、ネットワークづくりを進めるため、研修や交流を目的とした「文化芸術ミーティング」等を開催

【実績】

- キックオフミーティング(R7年6月7日開催)
30団体・46名参加
- アート茶会(毎月第3金曜日)
R7年度:5回開催(8月末時点)
毎回20～30名が参加

【予定】

- 人材育成研修会(R7年12月頃)
- 成果発表会(R8年3月頃)

主な事業の進捗

4 未来人材の育成 ～こども文化芸術体験1万人プロジェクト～



アートキャリア講座



学校へ出向いての音楽体験事業

【実施概要】

文化芸術分野の進路を希望する子どもたちを応援するためのキャリア教育プログラムを実施し、本県の文化芸術を担う次世代を育成

【実績】

参加者：34名(中学生20名、高校生14名)

内 容：講師からのお話、ワークショップ

第1回	R7年6月29日	美術家
第2回	R7年7月26日	デザインと地場産業
第3回	R7年8月23日	カメラマン
第4回	R7年9月28日	デザイナー

【実施概要】

小学校・中学校や特別支援学校に出向き、越のルビーアーティストによる演奏会や参加者が輪になって行う即興の打楽器アンサンブル「ドラムサークル」の体験会を開催

【実績・予定】

○越のルビーアーティストによる演奏会(出張音楽堂)

14校で実施

○ドラムサークル体験会

16校で実施

主な事業の進捗

5 県民による文化創造への機運醸成 ～文化芸術に溢れ賑やかな福井づくりプロジェクト～



アーティストバンクの利用促進



まちなかミニライブ開催

【実施概要】

「越のルビーアーティストバンク」や「芸術文化人材データベース」に登録されているアーティストの利活用を促進し、文化芸術に溢れるまちづくりを進める

【実績】

- 越のルビーアーティストバンク
利用実績(8月末時点) 3件 予約済6件
- 芸術文化人材データベース
利用実績(8月末時点) 3件

【実施概要】

県民の日々の生活の一部となっている街なかにおいて、県内で活動しているアーティストによるミニライブを実施し、ホール等に来場する機会がない県民も気軽に音楽にふれる環境を創出

【予定】

- R7年11月29日 きらめきみなと館(敦賀市)
- R7年12月 7日 武生楽市(越前市)
- R7年12月13日 ショッピングモールVio(大野市)
- R7年12月21日 福井市観光交流センター(福井市)

○「ふくい文化創造センター」についての周知・広報

プレスリリースによるマスコミへの情報提供のほか、ホームページの整備、機関誌、SNSなどによる情報発信を積極的に行っているが、センター設置や事業内容について「知らなかった」「もっと広報すべき」という声が多く聞かれる

対応

- ・県の広報媒体等も活用しながら、さまざまな機会をとらえて周知を行う
- ・企業・団体とのネットワークを通じて周知を図る

○ 県民のニーズに合わせた事業の企画・運営

新規事業について、予想を上回る反響を得られた事業があった一方で、応募(申込み)が伸び悩んでいる事業もある

対応

- ・応募(申込み)が少なかった事業については、対象者・関係者等の声を聞きながら事業内容や周知方法の見直しを行う

(例)小学生のための音楽鑑賞会(ハーモニーホールで小学校向けの室内楽コンサートを開催)
子どもの公演鑑賞体験支援(小学生～18歳を公立文化施設の公演に無料招待)

○ 専門性を活かし、社会の変化や課題に対応

これまで培ってきた音楽分野の専門人材に加え、アート分野の専門人材(ディレクター、地域おこし協力隊)の配置が9月に完了したため、それぞれ持つ知識や経験、ノウハウを活かしながら、県民主体の文化芸術活動を伴走支援するためのスキルをさらに高めていく必要がある

対応

- ・県内の文化活動実践者や団体、企業などとのネットワーク構築を強化していく
- ・アーツカウンシルの先進事例等から学ぶことでスキルアップを図る